

御嶽山の現地調査の結果

御嶽山火山防災協議会

平成29年8月21日に御嶽山の噴火警戒レベルが2から1へ引き下げられたことを受け、御嶽山火山防災協議会では、必要な安全対策を検討するため、協議会幹事会構成機関による現地調査を実施しました。

1 調査期間 平成29年8月29日（火）から30日（水）まで

2 調査概要

山頂部を含む火口から概ね1キロメートルの立入規制区域内の登山道の荒廃状況や山小屋等施設の破損状況などの現状について調査を実施しました。

山頂周辺では、火山灰が0cmから70cmほど堆積し、登山道、木道、木橋は、雨水等の浸食で流出・滅失している個所があります。山頂部の山小屋は屋根の一部が崩落し、壁や窓等が破壊され、建物への立入が危険な状態です。【詳細は各項目を参照】

現在の規制区域内において、登山道・施設を現状のまま使用することは危険であり、災害応急対策・復旧等に従事する者以外の立入りは非常に困難であることを確認しました。

3 参加機関：長野県庁、木曾地域振興局、木曾町、王滝村、長野県警察本部、長野地方気象台、岐阜県庁、飛騨県事務所、下呂市、気象庁火山課（総数 22名）

4 調査日程

1 日目（8月29日 8:00～16:00）

御岳ロープウェイ鹿ノ瀬駅→石室山荘→二ノ池本館→二ノ池新館→
36 童子の塔

→（A班）お鉢巡り→剣ヶ峰→石室山荘

→（B班）二ノ池新館方面→石室山荘

2 日目（8月30日 7:00～14:30）

石室山荘発→剣ヶ峰→八丁ダルミ→王滝頂上山荘→剣ヶ峰経由→
石室山荘→御岳ロープウェイ鹿ノ瀬駅

5 調査結果

* 調査箇所：別紙のとおり

○お鉢巡り（一ノ池周辺）

二ノ池新館から 36 童子の塔までは火山灰の堆積が少ないものの、安定した足場がない。滑落の危険性は少ないものの、落石の危険がある。

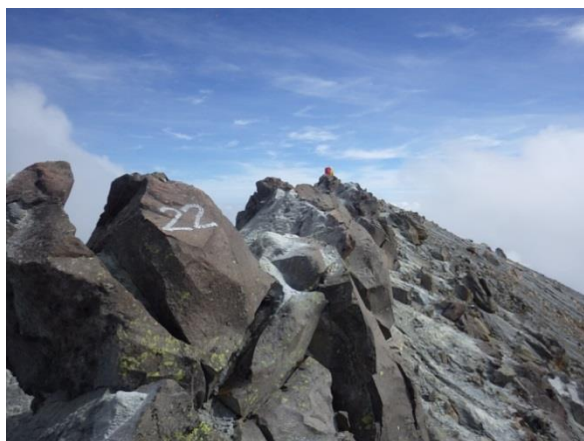
36 童子の塔から剣ヶ峰までの稜線は、3 年前の噴火による火山灰が 0 c m ~ 70 c m ほど堆積している。火山灰は滑りやすいため、滑落の危険がある。



① 29 日 14:00 頃



② 29 日 14:30 頃



③ 29 日 14:30 頃



④ 29 日 15:00 頃

○黒沢口登山道（横道十字路～剣ヶ峰）

雨水等の侵食により数十メートルにわたりV字型に削られ、登山道が消滅している箇所がある。また、木の階段の一部も流され、登山道の機能を消失している。



⑤ 30日 10:45頃



⑥ 30日 10:30頃

○八丁ダルミ（剣ヶ峰～王滝頂上）

木道や木の階段が流されている箇所が多く認められ、登山道としての機能を消失している。



⑦ 30日 8:30頃



⑧ 30日 8:45頃

○王滝口登山道（九合目避難小屋～王滝頂上山荘）

木の階段が雨水等により流された箇所が認められ、登山道としての機能を消失している。



⑨ 30日 9:00 頃

○二ノ池トラバース（まごころの塔二ノ池分岐～横道十字路）

沢を横断する長さ 4 m 程の木橋が噴石や融雪等により損壊し、登山道としての機能を消失している。また、登山道の山側法面上部に火山灰が厚く堆積し大きな噴石もあることから、これらの崩落の危険が認められる。



⑩ 30日 10:30 頃



⑪ 30日 10:30 頃

○御嶽頂上山荘

噴石の衝撃、降灰や降雪等により屋根の一部が崩れ落ち、壁や窓も破壊されており、建物内部への立ち入りが危険な状態である。



⑫ 29日 15:30頃



⑬ 30日 7:45頃

○御嶽剣ヶ峰山荘

噴石の衝撃、降灰や降雪等により屋根の一部が崩れ落ち、壁や窓も破壊されており、建物内部への立ち入りが危険な状態である。



⑭ 30日 7:45頃



⑮ 30日 7:30頃

○王滝頂上山荘

剣ヶ峰にある2つの山小屋に比べると、損傷の程度は軽いものの、屋根には噴石が貫通した痕跡が認められる。



⑩ 30日 9:30頃



⑪ 30日 9:00頃